

登録コード:MH256300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	血液検査学実習 【20M・21M】 Laboratory hematology practice II		
担当教員	樋口 由美子 新井 慎平・松田 和之		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻・3年 前期 金曜・1時限 金曜・2時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科241講義室 保健学科分析系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	基本的な血栓止血検査が実施でき、その臨床的意義が理解できる。 血液形態検査をより適切に実施できる。 染色体分析検査の方法と意義が理解できる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	出血性疾患および血栓性疾患の診断と治療効果の判定に関わる血栓止血検査の測定法と評価法について学び、実習する。 血液形態検査学実習をさらに発展させる。 染色体分析検査を学び、実習する。 本授業は、2年次に学んだ「血液検査学」や「血液検査学実習I」の知識を前提とし、「輸血・細胞性免疫検査学実習」などの内容と相補的に学んでいくことになります。また、本授業の内容は、4年次の臨地実習における重要な基礎知識となります。 本授業は担当教員の血液検査学・血液学における臨床検査技師・医師としての実務経験を活かして講義・実習を行います。		
授業計画	第 1回 (4月10日) 止血機序、採血と抗凝固剤、検体の取り扱いと保存 第 2回 (4月17日) 止血スクリーニング検査法と測定意義、成績の解釈 第 3回 (4月24日) APTTの測定と条件検討(実習) 第 4回 (5月8日) APTT実習結果についての討論、外因系と内因系凝固、PTの表記法、真空採血管による採血 第 5回 (5月15日) PTの測定(実習) 第 6回 (5月22日) 末梢血塗抹標本の作成と普通染色、血液像算定 (実習) 第 7回 (5月29日) 血液異常が疑われる標本の観察-1(実習) 第 8回 (6月5日) 染色体と染色体検査 (松田) 第 9回 (6月12日)および6月15日(月)の3,4,5限予定) 染色体検査(実習) (松田、樋口、新井、平) 第10回 (6月19日) 血管因子と凝固線溶制御機構、血小板機能検査と解釈 第11回 (6月26日) 出血時間、血小板凝集能検査-1 (実習) 第12回 (7月3日) 出血時間、血小板凝集能検査-2 (実習) 第13回 (7月10日) 凝固因子異常と凝固因子測定法、線溶系の検査、分子マーカー 第14回 (7月17日) 血栓止血検査の総括 第15回 (7月24日) 血液異常が疑われる標本の観察-2(実習)、血液形態検査の総括、授業アンケート 第16回 (7月31日) 筆記試験		
授業の進め方	講義と実習 実習の準備と片付けは順番にグループ毎に行う。		
テキスト、教材、参考書	血液検査学 (医歯薬出版)、血液細胞症例集(丸善出版、JAMT技術教本シリーズ)、プリント 参考書;スタンダード検査血液学 (医歯薬出版)、臨床検査法提要、血液細胞アトラス (文光堂) 参考ウェブサイト: みんなの血液検査セミナー (http://www.beckmancoulter.co.jp/hematology/index.html) ASH Image Bank(http://imagebank.hematology.org)		
成績評価の方法	期末試験、レポート (各実習終了ごとに提出、それぞれ指示あり、計7回程度) から総合的に評価します。 配分は実習のレポート20%、筆記試験80%とし、総計の60%以上を合格とします。レポート未提出は-3点とします。 レポートは各実習の方法と結果及び考察が適切に記載されているか、記載量としては十分か、を含め理解度を確認します。 期末試験では、血栓止血機構とその異常を来す疾患、検査法、血液異常と血液細胞形態などに関しての理解度を確認します。染色体検査法に関しても確認します。		
成績評価の基準	期末試験では、行動目標に関連した設問に対する選択式解答に加え、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の論理的妥当性などを指標として、講義内容の範囲での、最低限の解答内容であれば、「水準にある」、ほぼ適切な解答であれば、「やや上にある」、十分に適切な解答内容であれば「かなり上にある」、該当範囲を超えて自身で能動的に学習した詳細な解答内容であれば「卓越している」と評価する。 レポートに関しては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課		

成績評価の基準	題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」と評価する。 90-100点：秀、80-89点：優、70-79点：良、60-69点：可。
事前事後学習の内容	eALPSの資料で講義、実習内容を事前に確認、理解しておく。口頭で前週やそれまでの内容の理解を問う試問を行うので内容を復習しておくこと。 本授業の単位取得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間（2時間×30回）＋自己学習時間30時間（1時間×30回）＝90時間。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	実習では実施する検査の目的、意義および方法についてよく理解してから臨むこと。 オフィスアワー；個別の質問等はE-mailを含め樋口および新井が随時受け付けます。 E-Mailアドレス；樋口：sasa0922@shinshu-u.ac.jp 新井：arais@shinshu-u.ac.jp